



地域住民自治協議会は…

区・自治会だけでなく、地域で活躍されているさまざまな団体がお互い連携しながら、今津地域を元気にし、活力あるまちづくりを行なうことを目的としています。
一人ひとりが主役の組織です。

発行 高島市今津地域住民自治協議会
事務局 今津町中沼一丁目4番地1
今津東コミュニティセンター
(今津公民館)
TEL 090-4927-3222
メール info@imazu-jichikyo.org

みんなで運動あそび 楽しかったあ～

教育・福祉部会の初めての「Base(ベース)子ども活動事業」が栄区等と連携し8月27日、9月4日、5日と栄区集会所で開かれました。

27日は、区役員、老人会や民生委員児童委員さんらが見守るなか、12人の児童と親が参加され、特定非営利活動法人「びわの音・西近江」のコミュニティスペースFLAT 管理人で保育士の服部哲也さんが、運動遊びの講師としてボール遊びなどで楽しく汗をながしました。

子どもが「みんなと遊べて楽しかった。また行きたい」と話していたと迎えに来た保護者の方。なかなか集まって遊ぶことのない子どもたちには、楽しい時間を過ごせたようです。

地域の子ども会や老人会など、今まであったいろいろな団体がなくなったり、活動が停滞している傾向があります。少しでも地域が連携しているんな活動につながればと関係者は願っています。



Base 子ども活動事業は、子どもの健全な育成を願い、身近な地域の集会所を拠点として、地域の人々、老人会、学区民会議、民生委員児童委員、大学生、指導委員等の支援・協力を得て、子ども活動を指導・支援します。今年度はモデル地域で開催します。詳しい内容などは、お問い合わせください



同協議会委員で、今津地域区長・自治会長連絡会 A ブロック座長でもある栄区の堀井陽一区長は「コロナ禍で子ども会など、いろんな団体に活動ができなくなり、身近な区集会所をよりどころにまた集まることができれば、今後、ここに高齢者の方も参加して昔の遊びなど一緒にできれば楽しい場にもなる。欲張らずに近隣区とも連携し、ひとつずつ実現できれば」と話されていました。

わかるかなあ？

ごみ分別学習事業



魚釣りの要領で、封筒をつりあげ、中にあるイラストで描かれた「ごみ」を、「燃やせるごみ」や「燃えないごみ A 類」などに分け、分別を楽しく遊びながら学習するゲーム。

防災・安全・地域連携部会のメンバーが手作りし、7月29日、8月1日と学校支援ボランティアで活動されている夏休みの居場所活動「はなまる+（プラス）」のエンジョイタイム（遊びの時間）におじゃましました。

「う～ん、どっちかなあ～」

会場にはごみの現物も並べ、市の「ごみの分け方・出し方」パンフレットと比べながら、子どもたちは四苦八苦。「こっちかあ」と分別箱に入れていました。何度も遊ぶ子もいて、自然と学べる手応えを感じました。

今回の経験と進め方などを改良し、予定している街角遊びの時には、もっと多くの親や子ども向けにやろうと、意気込んでいます。



通りのガイド養成

今津のまちの歴史、観光、伝承などを訪れる人につたえ、今津の魅力を発信するため、通りを中心に案内するガイド養成講座を開きました。

講師の澤田市治さんから今津の歴史や史跡など講義いただきました。また、今まで活動されてきたガイドの春山太郎さん、澤田浩さんから、経験談など振りかえっていただき貴重なお話をお聞きしました。

今回は、実際に通りを歩きながらガイドの実際を学ぶ現地研修を開く予定です。



産業・観光・文化部会では、通りの愛称を多くの方より応募いただき、親しみやすい愛称を決定し、「今津中心部歴史・観光ガイド」を作成しました。

今年度は、今津地域全体のガイドマップや通りに関する事業をすすめています。



残念ながら、今津の魅力が地域の方や訪れる方々に広く伝わっていません。まず、しっかりと知ってもらい、伝えられるガイドの養成は欠かせません。

祭 3年ぶりの やっさ!今津!!

近江今津ふるさと夏まつり実行委員会が主催する「やっさ!今津!!」が、新型コロナウイルス感染対策を徹底しながら、8月1日、3年ぶりに開かれました。

夏のひと夜、心待ちにしていた久しぶりの夏まつりに、大勢の人がステージのパフォーマンスや屋台、「高島音頭総踊り」、琵琶湖沖の約1500発の花火を楽しんでいました。

創作灯ろうや供養灯ろうなども飾られ、会場には多くの団体や同協議会員も、一緒になって応援しました。



いまづ まちなか 探訪記

あんな人こんな人

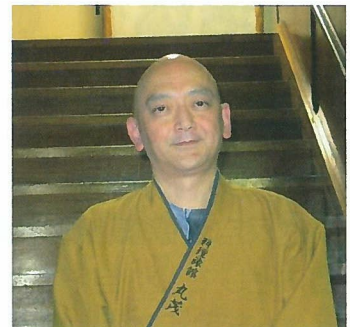
近江今津ふるさと夏まつり実行委員会
実行委員長 藤野 貴久さん

(今津地域住民自治協議会副会長)

「市民の皆さんと学校のボランティア、PTA、青年団、区や自治会、多くの地元企業や団体などと一緒にやって一緒に楽しむ。みんなで楽しむ夏まつりが『やっさ!今津!!』の思いだ」と話す藤野委員長。

直前になって新型コロナウイルス感染が再び急拡大するなか「実施には感染防止対策を施すなど苦心したが、例年以上の10,000人余りの多くの人に来てもらい、喜んでもらい、皆さんが待っていてくれたことが喜び。一生懸命長い期間、段取りをすすめてきた委員会メンバーはもとより、関わってくれたすべての人に感謝したい。やって良かった」と振り返る。

コロナ禍の今こそ、地元を誇りを持つこと。ふるさとへの想いや熱さを忘れないように。もっと地元を知り、今やから今津を見直す、高島を見直すことも大切だと次世代に熱いエールを送る藤野さん。何ごとにも「やらせてもらっている」と考え、リーダーシップを発揮する藤野さんの活動に期待が高まっている。

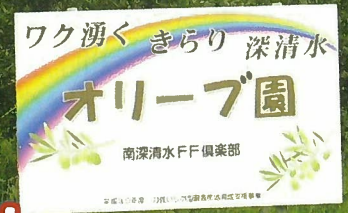


8/1「やっさ!今津!!」での検温ブース

知っ **てる** 街ネタ



オリーブが 実ってきたよ!



今津町深清水

2016年に地元の未来のために、柿農家を中心に結成されたのが「南深清水 FFF 倶楽部」。FFF は、For the Futurs (将来のために) の略です。

高齢化で柿畑の耕作放棄地が増えてきたことから、地域の魅力をどう発信し、どう将来につなげていくのかと考えていたとき、オリーブが目にとまったといいます。健康や美容にも良く、獣害も強く、栽培が容易などのメリットがあり、500本を目標に、さまざまな品種を栽培するなど試行錯誤を続けてこられました。3年目以降から結実しはじめ、昨年から収量が上がってきたと管理に余念が無い桂田隆司さんに伺いました。

オリーブは、地中海沿岸が原産のモクセイ科オリーブ属に分類される常緑高木です。5~6月に開花し、1つの花房に直径3mmほどの白い小花が房状につきます。

地中海のイメージがあるオリーブですが、福井県三里浜や富山県砺波、入善町など、寒い北陸地方でも産地が育っています。高島市では「オリーブ産地化促進事業」を令和2年度から5年間の総合戦略事業に掲げ、令和6年度1,700本(5.7ヘクタール)の目標を掲げています。

オリーブは良質な実が多く獲れるには時間がかかることから、葉をお茶にして商品化。龍谷大学農学部との連携で、2019年に滋賀県の「しがのふるさと支え合いプロジェクト」の協定を締結し、地域活性化に取り組んでいます。



自治協って なに!?

運営の 原則は?

住民自治協議会の運営原則は、地域での公共的団体として、区・自治会はもとより地域に関連する団体、市民活動団体などのほか、幅広い年齢層や性別を問わず参加できる仕組みをつくり、「自分たちの地域は自分たちでつくる」という持続可能な組織とするものです。

また、区ごとで行なうよりも地域全体で行なう方が効率的なことを担ったり、地域活動が困難になりつつある活動を地域全体で支えることも重要な考えです。



編集後記



猛暑の厳しい日々を乗り越え、いよいよ楽しみな「稔りの秋」シーズンの到来です。と同時に、台風シーズンも一緒に、災害なく過ぎ去ることを願うばかりですが、「備え」は欠かせません。日々の暮らしのなかに防災、減災を意識しながら、家族などで「いざ」というときの対策を決めておきましょう。